



## 記者手帳

処理業界の最近の  
あいさつは「2割ぐ  
らい減りましたね」

「うちなんか3割、4  
割減ったよ」「売りに  
出ている施設が増え  
てるね」「大手業者が  
すごい値段で営業し  
ているね」とにかく  
月に30トンくらい荷を

入れてくれ「などと  
いうのがだいたい  
内容だ。  
とにかくまず、産

# 我慢のしどろろと対応策

るところだが、処理  
現場のレベルでは相  
当に深刻な状態にな  
っている。現在、産  
業廃棄物などをそれ  
なりの量で集荷でき  
ているのは「値段で

にもそういう話がい  
くらでも来るよ。た  
だ、だいたい日量5  
ト以下の施設なんだ  
が、残念ながら買っ  
ても使い道がない」  
というような感じだ

そして、最も多く  
聞かれるのが「今は  
我慢の時だ」という  
もの。計画はあるが、  
景気の底が読めない  
状況では、怖くて設  
備投資などできない。  
ただ、勢いのあ

業廃棄物、事業系廃  
棄物の量が減った。  
この数字などは、国  
が毎年発表している  
産業廃棄物排出量の  
数値にどれだけ反映  
されることになるの  
か、大いに注目され

勝負する。まずはシ  
ェアでとることだ」  
「何でもいから荷  
を選ばずばとること  
だ」というようなと  
ころか。  
処理施設の売りの  
動きも目立つ。「うち

が、中には「同業が困  
っているから、買い  
に出た。地方レベル  
ではこのような『救  
済的M&A』のよう  
な案件が少なくない  
のではないか」とい  
う声も聞かれる。

悪い今こそ、『値  
段的にもやや譲歩  
しつつ、長く付き合  
える顧客をつかむこ  
と。それには、常に  
設備投資を考え、数  
年先に融通の効く道  
をつくっておく。こ  
れが重要だ。」(中)